

動物の飛び出し・・・まずブレーキを！

先日、新潟県でスクールバスが道路脇から出て来た小動物を避けようとしてハンドルを切り、横転する事故がありました。事故現場は緩い右カーブで、バスは道路から約1m下の田んぼに落下し、登校のために乗っていた小学生9人が負傷しました。

■危険回避の鉄則は「ハンドル」よりも「ブレーキ」・・・

・道路脇から動物が出てきたら、ハンドルでかわすのではなく（車が道路外に飛び出す危険性などがある）、まずは乗員の安全を考えてブレーキを踏むことが重要です。

少しでも車のスピードが落ちていれば、動物は素早いので避けてくれる可能性があり、万一衝突してもスピードが下がることで大きな被害にならない可能性があります。

・また、直前の飛び出しなどで事故を避けることが困難な状況では、特に相手が小動物の場合は衝突して小動物が死傷したり車両が損傷することに比べれば、小動物を避けて人間が死傷することの方がはるかに重大な問題であるという考え方も必要です。

■動物の飛び出しに備えた危険予測運転をしよう！

・山間部の道路などを走行していると、ときどき「動物注意」の標識を見かけることがあります。この標識を真剣に見て注意している人は少ないかも知れませんが、動物の飛び出しにあったとき、冷静に対処する心構えが重要です。

大切なことは、危険を予測して、スピードを控えめにし、対向車線や隣車線、路側帯などを常に意識しておくことです。

・「動物注意」の標識を見かけたら、「動物が飛び出してくるかもしれない」ことをある程度予測して、「動物の飛出し」⇒「急ハンドルなどは危険」⇒「慎重に回避 & 被害は最小限に」と考え、予め心構えを持って慎重な運転をしてください。



■動物の飛び出し事故に注意すべき時期・時間・場所は？

・タヌキやシカなど秋以降は親離れをして単独行動をする動物が多いので、動物が関係する事故は秋から冬にかけて多く発生します。

・また動物との事故が多いのが、夜行性の動物が多く生息する地域で、街灯がないような真っ暗な道路での事故です。山に生息しているシカやイノシシなどの野生動物が原因の交通事故数のうち日没から日の出までの夜間の事故件数は全体の8割以上となっています。